

令和 5 年 6 月 27 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C)（特設分野研究）

研究期間：2019～2022

課題番号：19KT0044

研究課題名（和文）経済新興国インドにおけるギグ・エコノミーと新しい信頼関係の可能性

研究課題名（英文）Gig Economy and the new possibilities of trust in India

研究代表者

池亀 彩（Ikegame, Aya）

京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授

研究者番号：40590336

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、コロナ感染症拡大のため、予定していたインドのフィールドワークができなかったため、マレーシアとの比較調査に変更した。これによりインド一国では見えてこなかった、新興国の中での違いが明確になり、研究成果としては意義のある成果が出た。インドではSNSなどを使って、配車アプリを使うドライバーに遠隔でインタビューを行った他、マレーシアでは、実際に配車アプリを使用し、ドライバーの方々と直接のインタビューを行うことが出来た。また現地で研究助手をお願いし、インタビューを継続してもらうことが出来た。2021年には初期のインタビューを元にした研究成果を単著の一部として発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

インドとマレーシアという経済新興国の二つを対象とすることで、二国間に大きな違いがあることが分かった。それぞれの国の、配車サービスやタクシー免許などに関する法的制限、労働市場の性格、ドライバーという仕事に対する文化的意味づけなどが明らかになった。日本においても、「プラットフォーム資本主義」というアプリを通じた新しい働き方の問題点が多く指摘されているが、アジアの新興国では、プラットフォームの弱みを巧みに利用し、顧客との新たな信頼関係を構築するなど、ドライバー自身の戦略も見えてきた。本研究は、搾取という側面ばかりが強調されがちなギグ・エコノミーを巡るより広い議論へも貢献できると考えている。

研究成果の概要（英文）：The main field site for this research has been changed to Malaysia as the planned fieldwork in India could not be carried out due to the spread of COVID-19. This unexpected change revealed that within emerging markets, there are differences that could not be seen in India alone, and thus the research results were significant. In India, we conducted remote interviews with drivers who use ride sharing apps. In Malaysia, we actually used ride sharing apps and were able to conduct direct interviews with drivers. We were also able to ask for a research assistant in the field to continue the interviews, and in 2021 we published our research findings based on the initial interviews as part of a monograph.

研究分野：文化人類学 南アジア地域研究

キーワード：ギグ・エコノミー 経済人類学 インド マレーシア 配車アプリ ドライバー

## 1. 研究開始当初の背景

経済新興国として台頭しつつあるインドは、目覚ましい経済発展を続けているが、教育・健康・賃金などを測る人間開発指数はほとんど上昇していない。雇用なき発展といわれる現状が指摘される一方で、最先端の情報技術を用いた不安定な大量の「雇用」が生み出されている。本研究では配車サービス・アプリケーションによって出現した 150 万人ともいわれるドライバーに着目し、彼らが、彼らの生活をそれまで守っていた様々なトラスト関係(親族、カースト、宗教団体、ユニオンなど)から離れ、少なくとも理論上は「個人営業主」として、不安定なギグ・エコミーのなかで、どのような問題を抱え経済・労働活動を行なっているのかを人類学的手法を用いて明らかにする。情報技術が生み出す新しい経済活動と信頼(トラスト)との相互作用をホポランニーの「埋め込み」概念を鍵として、経済、社会、法的側面において明らかにする。そこで果たして旧来のトラスト関係はどう新しい状況に対応し変化しているのか、また旧来とは異なる新しいトラスト関係が生まれる可能性はあるのか、刻々と変化する労働者とプラットフォーム技術との関係を追いながら、より民主的で人間的な経済関係の可能性を考察する。本研究の学術的独自性・創造性は、経済新興国・開発途上国の抱える構造的問題に着目する点、人類学的手法によってギグ・エコミーの実態をより具体的に明らかにする点、そして媒介者を埋め込み概念から再評価する点である。

## 2. 研究の目的

ピア・トゥ・ピア (Peer to Peer あるいは Person to Person, P2P) 技術を用い、直接的かつ効率的に個人と個人を結びつけることによって、新たな経済活動を生もうとする、いわゆる「プラットフォーム資本主義」は一方で労使関係が不明確になり、労働者が「個人営業主」として扱われるために、それまで労働者を守ってきた様々な労働法が適応されないなど、搾取的であるとして、日本を含めた先進国でも社会問題になっている。本研究はそもそも労働者の権利が守られていない経済新興国(特にインド)において、新しい働き方がどのような社会的意味を持っているのか、この新しい働き方によって、誰が利益を得ているのかを明らかにすることで、日本を含めた先進国における新しい働き方(ギグ・エコミー)の議論をより多角的に発展できることができる。

## 3. 研究の方法

インド人の多くは、政府や大企業以外のいわゆる「インフォーマルセクター」で経済活動を行っている。そこでは、親族、カースト、宗教などをベースにしたネットワークが安定した収入を確保する上で重要である。そうした世界では給与に含まれない様々な収入の形態があり、また強い者が弱い者への資金・ネットワーク・仕事を提供しなければならない倫理的な義務があり、それが一種の再分配を促していると言われる。こうした従来の経済関係はポランニーが示唆した

ようにまさに社会に「埋め込まれ」ており、様々な関係性や倫理観を理解できなければ、こうした経済関係を分析することが出来ない。したがって本研究では、複雑な社会関係を読み解く手法と理論的積み重ねを有している人類学的方法をとる。研究代表者すでに当該地域で長く調査し、現地語でインタビューできるほか、文化的背景、特に複雑なカースト関係を理解していることが有利な点である。より長期にわたるインタビューの他、単発的なインタビューを多く行い、また特には労働組合の集まりなどに参加し出席し参与観察を行うという方法をとる。

#### 4. 研究成果

本研究は、コロナ感染症拡大のため、予定していたインドのフィールドワークができなかったため、マレーシアとの比較調査に変更した。これによりインド一国では見えてこなかった、新興国の中での違いが明確になり、研究成果としてはより意義のある成果が出たと思われる。インドでは SNS などを使って、配車アプリを使うドライバーに遠隔でインタビューを行った他、マレーシアでは、実際に配車アプリを利用し、ドライバーの方々と直接のインタビューを行うことが出来た。また現地で研究助手をお願いし、特に研究代表者が直接に使うことのできないマレー語でのインタビューを継続してもらうことが出来た。

配車アプリのドライバーという、いわゆるギグ・ワーカーであっても、インドとマレーシアを比べた場合、彼ら・彼女らの社会経済的バックグラウンドが大きく違うことがわかった。インドではドライバーの仕事をしているのは、主に地方から出稼ぎにきた 20代・30代の男性であり、教育水準もそれほど高くなく、ホワイトカラーの職についていない人がほとんどであった。一方マレーシアでは、移民労働者がドライバーとして働いていることはほとんどなく（運転資格や配車アプリの登録の段階で移民がはじかれていると思われるが、これはさらなる調査が必要）、むしろホワイトカラー職にすでについている人が通常の収入を補足するためにパートタイムで働いていたり、あるいは専門職についていた人が引退後、年金を受給しながら収入の足しに働いているケースが目立った。また、マレーシアはムスリムが多い国であるにもかかわらず、20代、30代の女性（ムスリムを含む）がドライバーをしていたケースがしばしば見られた。

使用する車も、マレーシアでは自分の所有あるいは家族の所有する車を使っていることがほとんどであったが、インドでは、配車アプリのドライバーであることを前提としてローンを組んで購入した新しい車を使っており、そのローンの返済に苦労しているドライバーが多くみられた。マレーシアの場合もローンが残っているドライバーもいたが、それが負担になるというほどではなかった。

インドとマレーシアの両方でみられた現象は、フルタイムでドライバーとして働いている人たちの中に、個別に顧客との関係を構築し、徐々にアプリを通さずに直接顧客と契約して仕事を取っている人がいたことである。これは、プラットフォーム資本主義の裏をかくような行動であり、P2P 技術によって、無用の長物となったかのようにみえた個人的な信頼関係が、ふたたび復活しているようにも思える。こうした個人的な信頼関係に根差した経済関係はプラットフォーム資本主義とどのような併存関係を維持するのか、さらに今後の調査で明らかにしていきたい。

当初予定していた労働組合への調査は、コロナ禍により実現することが出来なかったが、調査助手を通じてマレーシアでの組合関係者へのインタビューは行うことが出来た。今後はさらにインドでの調査をすすめ、プラットフォーム資本主義における新しい連帯の形について考察していきたい。

2021年には初期のインタビューを元にした研究成果を単著『インド残酷物語』(集英社新書)の一部として発表した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Aya Ikegame	4. 巻 28
2. 論文標題 New Dalit Assertion and the Rejection of Buffalo Sacrifice in South India	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 South Asia Multidisciplinary Academic Journal	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4000/samaj.7944	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 3件/うち国際学会 6件）

1. 発表者名 Aya Ikegame
2. 発表標題 Drinking Cultures in Bengaluru: Morality and Control in Liberalising India
3. 学会等名 TINDAS 7th Seminar in 2020-21: Food and Social Changes in Contemporary India（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 池亀彩
2. 発表標題 「 commonsとしての水とグル：南インドにおける宗教リーダーと環境問題」
3. 学会等名 四研究所合同シンポジウム『アジアの災害』（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Aya Ikegame
2. 発表標題 'Undoing Othering: M.N. Srinivas and nationalising anthropology'
3. 学会等名 The Other From Within Project Conference, the University of Leeds（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Aya IKEGAME
2. 発表標題 Devotion and Slavery: submissive agency and development in modern India
3. 学会等名 Ito International Research Centre Symposium (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Aya IKEGAME
2. 発表標題 Guru Governance: Devotional Citizenship and Rural Development in Southern India
3. 学会等名 the 48th Annual Conference on South Asia (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Aya IKEGAME
2. 発表標題 New Dalit assertion and the rejection of Buffalo sacrifice in South India
3. 学会等名 International Workshop Visible (and Invisible) Boundaries of Distinction and Exclusion (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 池亀彩
2. 発表標題 南インドのダリトによる水牛供犠の拒絶—人類学的研究はどう彼らの声を聞きそこねたか?
3. 学会等名 第八回 FINDAS 研究会「ダリトは語るができるか 南アジアの民族誌的研究の課題」(招待講演)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 池亀 彩	4. 発行年 2021年
2. 出版社 集英社	5. 総ページ数 272
3. 書名 インド残酷物語 世界一たくましい民	

1. 著者名 Gilmartin, David Price, Pamela Ruud, Arild Engelsen	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 234
3. 書名 South Asian Sovereignty: The Conundrum of Worldly Power	

1. 著者名 山本栄子・山本崇記	4. 発行年 2019年
2. 出版社 生活書院	5. 総ページ数 432
3. 書名 いま、部落問題を語るー新たな出会いを求めて	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------